

ごあいさつ

このたびは、ヤマハポータブルPAシステム STAGEPAS 400iをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。STAGEPAS 400iは、パワードミキサーと2台の専用スピーカーで構成されたオールインワンのPAシステムです。STAGEPAS 400iのさまざまな機能を十分に活用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

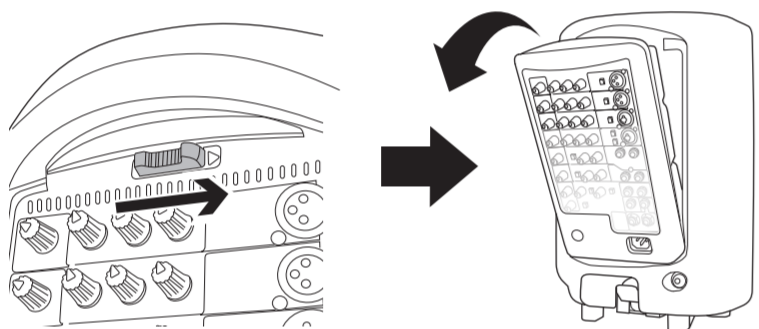
主な特長

- あらゆるパフォーマンスをサポートする出力 400W のパワーアンプ。
- 高品位でパワフルなサウンドを実現する 8 インチ 2way パスレフ型スピーカー。
- さまざまな入力に対応する 8ch ミキサー (4 モノラルマイク/ライン + 2 ステレオライン)。
- 生演奏やボーカルに最適な SPX グレードの高品質なリバーブ。
- 不快なハウリングを自動的に抑えるフィードバックサプレッサー。
- iPod/iPhone のデジタル接続と充電に対応した USB 端子。

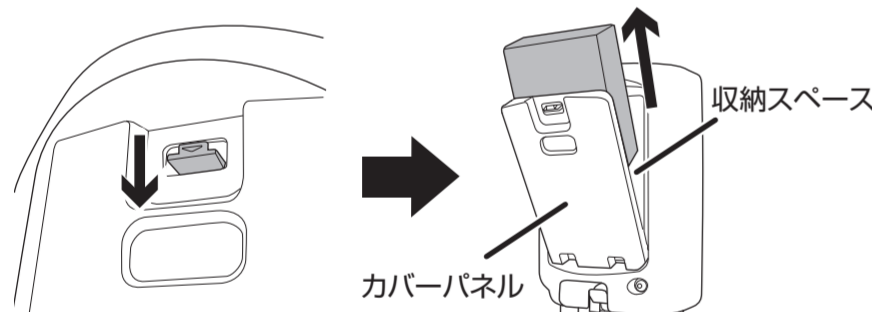
クイックスタートガイド

スピーカーとミキサーをつなぐ

- 1 ミキサーのロックを矢印の方向へスライドさせて、スピーカーからミキサーを取り外します。

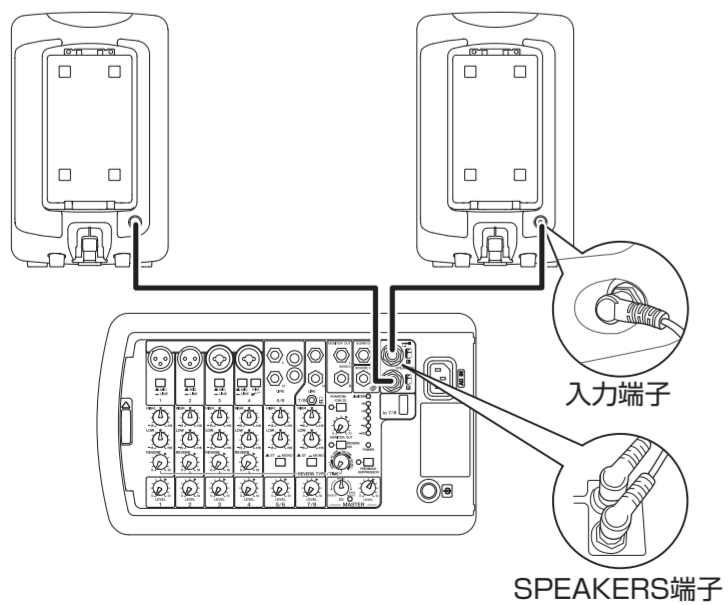


- 2 もう一方のスピーカーのカバーパネルを開けて、中の箱を取り出します。箱の中にはスピーカーケーブル2本と電源コード1本が入っています。



NOTE 箱を取り出したあとは、収納スペースに電源コード、スピーカーケーブル、取扱説明書(本書)、マイク(別売)などを収納できます。

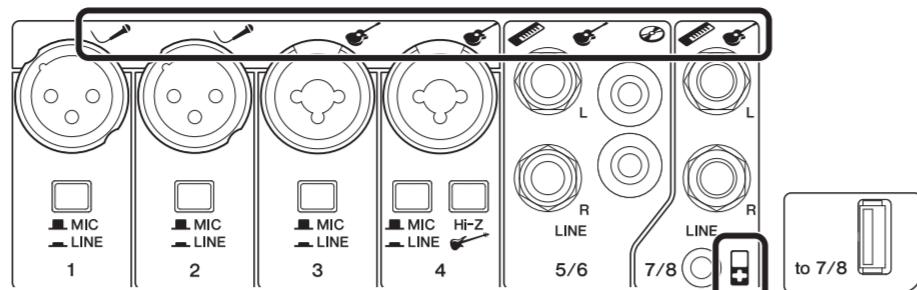
- 3 スピーカーとミキサーを接続します。付属のスピーカーケーブルを使って、ミキサーのSPEAKERS端子(赤)とスピーカーの入力端子(赤)を接続します。スピーカーケーブルは下の図のように奥までしっかり差し込んでください。



注意 必ず付属のスピーカーケーブルをお使いください。他のケーブルを使うと、発熱やショートの原因になります。

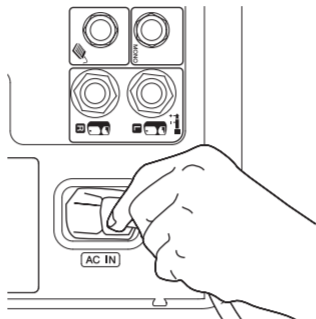
ミキサーにマイク/楽器/オーディオ機器をつなぐ

- 4 マイクや楽器などを、ミキサーの入力端子に接続します。ミキサー上のイラストや、カバーパネルの接続例を参考にしてください。

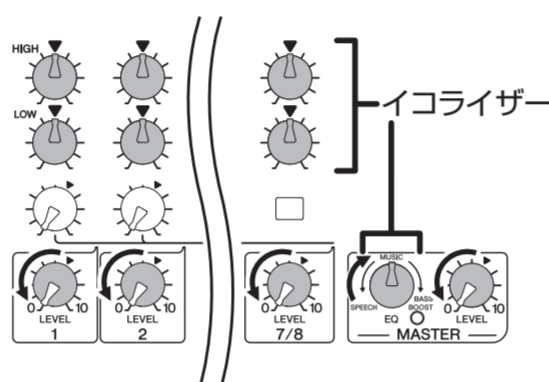


スピーカーから音を出す

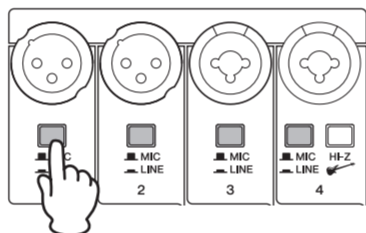
- 5 付属の電源コードを接続します。先にミキサーのAC IN に接続してから、コンセントに接続します。



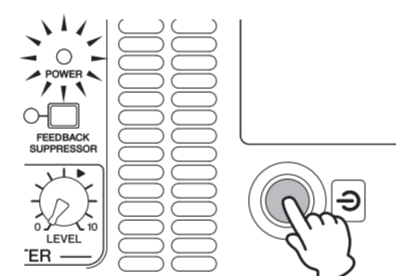
- 6 MASTER LEVEL (赤のつまみ)とLEVEL (白のつまみ)を「0」に下げます。イコライザー (緑のつまみ)をセンター位置「▼」や「MUSIC」に合わせます。



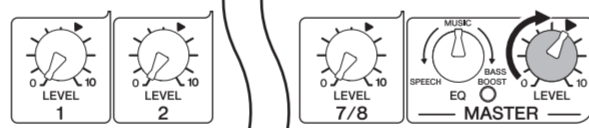
- 7 マイクを接続したチャンネルのMIC/LINEスイッチはMIC (■)に、楽器やオーディオ機器などを接続したチャンネルはLINE (▲)にします。



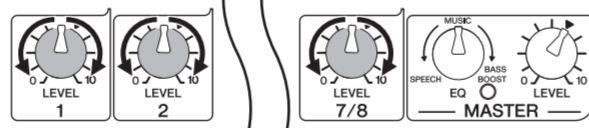
- 8 楽器やオーディオ機器などの電源をオンにしてから、ミキサーの電源をオンにします。POWER LEDが点灯します。



- 9 MASTER LEVELを「▼」の位置に合わせます。



- 10 マイクや楽器で音を出しながら、LEVELで各チャンネルの音量を調節します。



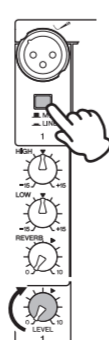
- 11 MASTER LEVELで全体の音量を調節します。音が出れば、準備は完了です。音が出ない場合は、裏面の「困ったときは？」のチェック項目をご確認ください。

NOTE 電源をオフにするときは、スピーカーから大きな音が出ないようにするため、ミキサー→楽器やオーディオ機器の順で電源をオフにしてください。

音量が大きすぎたり、小さすぎたりするときは？

音量が大きすぎるとき
いったんLEVELを「0」に下げます。MIC/LINEスイッチをLINE(▲)に切り替えてから、徐々にLEVELを上げて音量を調節します。

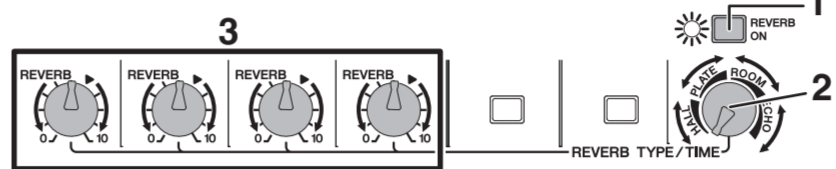
音量が小さすぎるとき
いったんLEVELを「0」に下げます。MIC/LINEスイッチをMIC(■)に切り替えてから、徐々にLEVELを上げて音量を調節します。



リバーブをかける

STAGEPAS 400i はヤマハマルチエフェクター SPX シリーズと同クラスのリバーブ (残響音/エコー) を内蔵しています。以下の手順でリバーブをかけることによって、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような音の広がりや響きが得られます。

- 1 REVERBスイッチを押してオンにします。オンのときにLEDが点灯します。
- 2 REVERB TYPE/TIMEのつまみの位置で、リバーブの種類と長さを設定します。つまみを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。
- 3 REVERBで各チャンネルのリバーブの量を調節します。必要に応じて手順2と3を繰り返し、最適な具合を調節します。



ミキサーの各部の名称と機能

- 1 マイク/ライン入力端子(チャンネル1~4)
マイク、ギター、電子楽器、オーディオ機器などを接続します。チャンネル3と4はXLR、フォンの両プラグに対応したコンボ端子です。
- 2 MIC/LINEスイッチ(チャンネル1~4)
マイクなど入力信号のレベルが低い機器を接続したチャンネルはMIC(■)にします。電子楽器やオーディオ機器など入力信号のレベルが高い機器を接続したチャンネルはLINE(▲)にします。
- 3 Hi-Zスイッチ(チャンネル4)
電池を使わないエレクトリックコースティックギターやエレクトリックベースなどの、パッシブピックアップの楽器を接続するときにスイッチをオンにすると、DI(ダイレクトボックス)なしで直接ミキサーに接続できます。この機能はフォーンでの入力時のみ有効です。
- 4 ライン(ステレオ)入力端子(チャンネル5/6、7/8)
電子楽器、エレクトリックアコースティックギター、CDプレーヤー、ポータブルオーディオプレーヤーなどラインレベルの機器を接続します。フォーン、RCAピン、ステレオミニのプラグに対応しています。
NOTE チャンネル5/6でフォーン端子とRCAピン端子に機器が同時に接続された場合は、フォーン端子が優先され、チャンネル7/8でフォーン端子とステレオミニ端子に機器が同時に接続された場合は、ステレオミニ端子が優先されます。もう一方の端子に接続された機器の信号はミュートされます。チャンネル7/8には⑨のiPod/iPhoneからの信号が常にミックスされます。

- 12 イコライザーつまみ(HIGH, LOW)
2バンドイコライザーで、各チャンネルの高音域(HIGH)と低音域(LOW)を調節します。つまみをセンター位置(▼)にするとフラットな特性となります。つまみを右に回すとその音域が強調されます。ハウリングする場合は、少し左に回してその音域を抑えます。

- 13 REVERBスイッチ/LED
スイッチをオンにするとLEDが点灯して、リバーブ(残響音/エコー)をかけることができます。電源を入れたときは、オフの状態になっています(他のスイッチとは異なりこのスイッチはロックしません)。

- 14 REVERB TYPE/TIMEつまみ
リバーブの種類と長さを調節します。つまみを右に回すほど、選んでいるリバーブの長さが長くなります。
HALL: ホールなどの広い空間の響きをシミュレートしたリバーブです。
PLATE: 鉄板の響きをシミュレートしたリバーブです。硬めで明るい残響感が得られます。
ROOM: 小さな空間(部屋)の響きをシミュレートしたリバーブです。
ECHO: ボーカル用途に最適なエコーです。
- 15 REVERBつまみ(チャンネル1~4)
⑬のREVERBスイッチがオンの状態で、各チャンネルのリバーブの量を調節します。

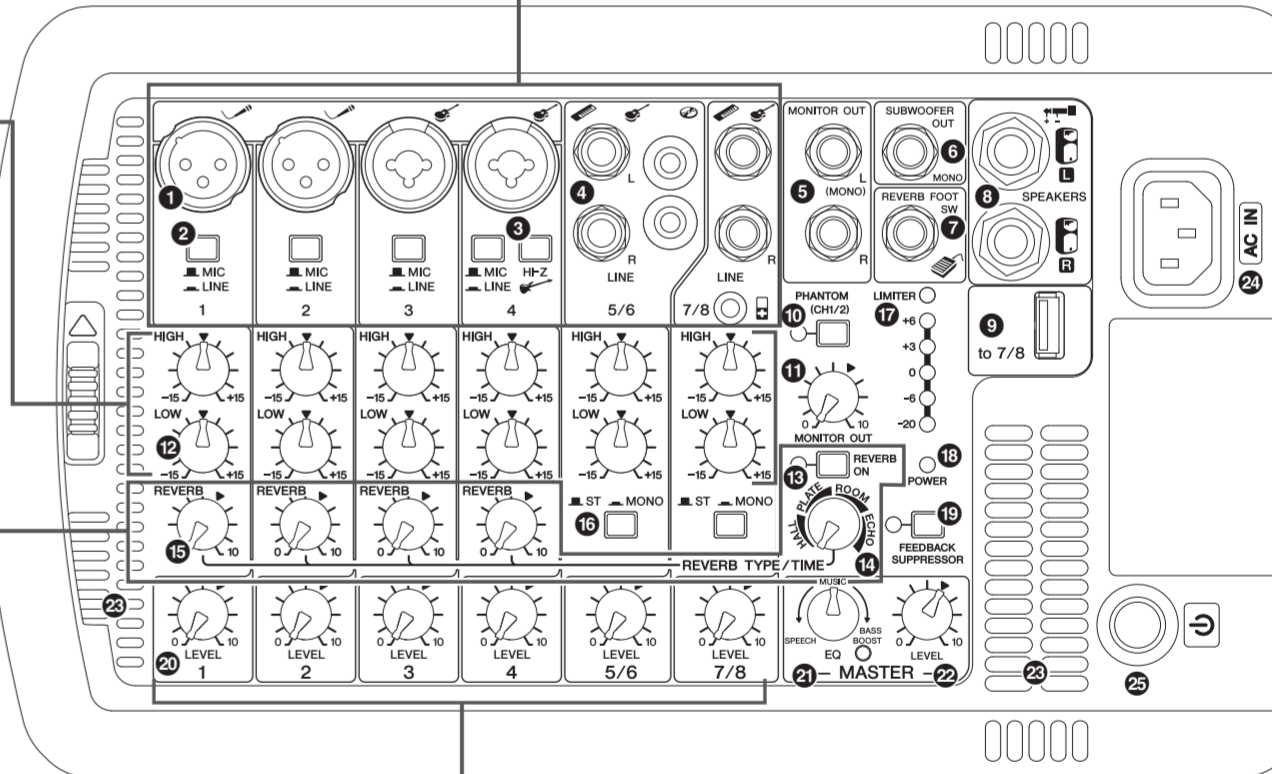
- 16 ST/MONOスイッチ(チャンネル5/6、7/8)
ST (STEREO)(■)にすると、L(左)とR(右)の信号がそれぞれ左右のスピーカーに割り振られて出ます。MONO(▲)にすると、LとRの信号がミックスされて左右どちらのスピーカーからも同じ音が出ます。ギターやモノラル出力のキーボードなど音源がステレオでない場合にMONO(▲)にすれば、ステレオ入力端子を複数のモノラル端子として活用できるので便利です。

- 17 LEVELメーター
SPEAKERS L/R端子から出力される信号のレベルを表示します。
注意 LIMITER LEDが長い間点滅し続けるほど大音量でお使いになると、内蔵のパワーアンプに過大な負担がかかり、故障の原因になります。信号の最大入力時に瞬点灯する程度以下になるように、MASTER LEVELつまみで音量を下げてください。
- 18 POWER LED
電源スイッチを押してオンにすると点灯します。
- 19 FEEDBACK SUPPRESSOR(フィードバックサプレッサー)スイッチ/LED
スイッチをオンにするLEDが点灯して、ハウリング(フィードバック)を自動的に抑えることができます。(7バンドのノッチフィルターが動作します。このスイッチまたは電源スイッチをオフにすると、ノッチフィルターはリセットされます。)

- 5 MONITOR OUT端子
モニター用のパワードスピーカーなどを接続します。チャンネル1~7/8の信号がミックスされて出力されます。出力レベルは、①のMONITOR OUTつまみで調節します。L(MONO)端子だけを使うと、LとRの信号がミックスされて出力されます。
- 6 SUBWOOFER OUT端子
パワードサブウーファーを接続します。モノラル信号が出力されます。この端子が使われているときは、SPEAKERS L/R端子への120Hz以下の信号がカットされます。出力レベルは②のMASTER LEVELつまみと連動しています。
- 7 REVERB FOOT SW端子
フットスイッチ(ヤマハFC5などのアンラッチタイプ)を接続します。リバーブのオン/オフを足元で切り替えることができます。ワンマンパフォーマンスのときに便利です。
- 8 SPEAKERS L/R端子
付属のスピーカーケーブルを使って、専用スピーカーと接続します。
- 9 USB端子
iPod/iPhoneをUSBケーブルで接続すると音楽再生と充電ができます。iPod/iPhoneからの音楽信号はチャンネル7/8にミックスされますので、チャンネル7/8のLEVELつまみで音量を調節します。また、この端子からUSBデバイスへの5V電源供給ができます。ただし、iPod/iPhone以外のUSBデバイスからのデジタル再生には対応していませんので、チャンネル7/8のステレオミニ端子などをお使いください。
注意
• iPod/iPhoneの接続には、純正のApple DockコネクタUSBケーブルをお使いください。
• USBハブは使用しないでください。
NOTE iPhoneを接続している場合、電話やメールを受信すると、その通知音スピーカーから出ますので、iPhoneの「機内モード」をオンにしておくことをおすすめします。

- 10 PHANTOM (CH1/2)スイッチ/LED
スイッチをオンにすると、LEDが点灯してチャンネル1と2にファンタム電源を供給します。コンデンサーマイクやDI(ダイレクトボックス)に電源供給するときは、このスイッチをオンにしてください。
注意
本体および外部機器の故障やノイズを防ぐために、以下の点にご確認ください。
• ファンタム電源が不要なときや、チャンネル1と2にファンタム電源非対応の機器を接続するときは、スイッチをオフにする。
• スwitchをオンにしたまま、チャンネル1と2でケーブルの抜き差しをしない。
• チャンネル1と2のLEVELを最小にしてから、スイッチをオン/オフする。

- 11 MONITOR OUTつまみ
⑤のMONITOR OUT端子から出力される信号レベルを調節します。MASTER LEVELつまみの影響は受けません。



- 20 LEVELつまみ
各チャンネルの音量を調節します。ノイズを減らすために、使わないチャンネルのつまみは最小「0」にしておいてください。

- 21 MASTER EQ(イコライザー)つまみ
全体の音の周波数バランスを調節します。センター位置(MUSIC)を基本として左に回すと低音域が抑えられスピーチに適した特性になります。右に回すと低音域がブーストされ再生音源などに適した特性になります。さらに右に回していくと低音ブースト機能がオンになってLEDが点灯し、より迫力のある低音が得られます。

- 22 MASTER LEVELつまみ
SPEAKERS L/Rから出力される音量を調節します。各チャンネルの音量バランスを変化させることなく、全体の音量だけを調節します。

- 23 通風孔
ミキサー内部の冷却ファン用の通風孔です。使用時はふさがないようにしてください。
- 24 AC IN端子
付属の電源コードを接続します。
- 25 (電源)スイッチ
電源をオン(▲)/オフ(■)にします。
注意
• 電源のオン/オフを連続して素早く切り替えると誤動作の原因になることがありますので、電源をオフしてから再度オンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。

